

## 革命の目標が党名を決める

モンゴル人民共和国代表団との会談\*

1921年11月5日

モンゴル代表団の第一の質問 「同志レーニン、わが国に人民革命党が生まれたことをどう見ていただけますか、またわれわれにとってもっとも重要なことはなんでしょうか？」

同志レーニンはわが代表団に、わが国の国際的地位を説明し、モンゴル人民共和国の地理的位置からみて、戦争のばあい帝国主義列強はわが国を奪取して他国にたいする軍事行動の基地に変えようとつとめるだろうと述べた。同志レーニンはつぎのように言った。だから、貴国のすべての勤労者にとって唯一の正しい道は、ソヴェト・ロシアの労働者・農民と同盟して国家のおよび経済的独立のためにたたかうことである。この闘争は孤立しておこなうことはできない。だからモンゴルの農牧夫の党アラートの創設は、彼らの闘争がうまくゆくための条件である。

モンゴル代表団の第二の質問 「民族解放闘争は勝利をおさめるでしょうか？」

同志レーニンの答え。

「私自身三〇年間革命運動にたずさわっているが、自身の経験からして、どの国民にせよ、内外の圧制者から解放をかちとることがどれほど困難であるかを知っている。しかし、モンゴルは牧畜の国で、住民の大部分は遊牧民であるにもかかわらず、その革命に大きな成功をおさめ、もっとも肝要なことには、人民革命党を創設することによってこの成功をうちかためた。この党の任務は大衆政党となることであり、また異分子に毒されないようにすることである」。

モンゴル代表団の第三の質問 「人民革命党は共産党になるべきではないでしょうか？」

同志レーニンの答え。

「私はそれをおすすめしない。なぜなら、一つの党が別の党に『なる』ことはできないからである」。プロレタリアートの党としての共産党の本質を説明して、同志レーニンはつぎのように言った。「革命家たちは、自国の国家建設、経済建設および文化建設のためにまだまだ大いに働かなければならないだろう。そうするうちに牧人的諸要素からプロレタリア大衆がつくりだされるだろうし、これが将来、人民革命党が共産党に『なる』のをたすけるだろう。単なる看板の掛けかえは有害であり危険である」。

同志レーニンはわが代表団にむかって、モンゴル人民共和国の非資本主義的發展が可能であり必要であるという考えを詳しく述べた。それによれば、非資本主義的發展の道への移行を確実にするもっともたいせつな条件は、人民革命党と政府が活動を強化し、この活動の結果、また党と権力の影響力がつよまる結果として、協同組合が成長し、経済運営と民族文化との新しい諸形態が根をはり、国の経済的、文化的發展をめざしてアラートが党と政府のまわりに結集するようにすることである。党と政府の影響をうけてつくりだされた新しい経済制度のもろもろの拠点からのみ、アラートのモンゴルの新しい非資本主義的経済体制が形成されるだろう。

事項訳注 P758-759

\* モンゴル人民共和国代表団は、1921年11月2日、モスクワに到着した。顔ぶれは、ダンザン（团长、蔵相、モンゴル人民革命党中央委員会議長）、スヘーバトル（人民革命軍総司令官、陸相）、ベ・ツェレンドルジ（外務次官）、チョン・ヴァン・シルニン・ダンヂン（僧界代表、非正式団員）、バトゥハン（顧問、責任通訳）。交渉の目的は、両国政府間の協定の締結であった。協定草案は、1921年11月3日、小人民委員会議で検討され承認された。調印は11月5日におこなわれた。協定によって、両当事国は自国領土内に他方の国に敵対するグループの結成と滞在をゆるさない義務を負い、外交官任命、国境画定の手続を協定し、関税政策の基本条項もきめられた。ソヴェト政府は、モンゴルにあるソヴェト所有の電信施設をモンゴル政府に移譲した。

レーニンとモンゴル代表団との会談は、1921年11月5日、クレムリでおこなわれた。

第42巻『モンゴル人民共和国代表団との会談』P494～496

1921年11月5日

1934年に、単行本『モンゴル人民革命党第九回大会(1934年9月28日－10月5日)』（ウラン・バートル、「今日のモンゴル」出版社）にはじめて発表、同書のテキストによって印刷。